



果樹特報 No.7.5

令和6年7月17日
JA中野市営農センター
JA中野市りんご・もも部会

【つがる 落果防止剤】 単用散布

*散布時期は目安です。生育状況により前後する可能性があります。

【散布日】

___月 ___日()

散布量

___ ℓ

散布時期	8/4~9頃 *収穫開始予定の15日前に1回散布
散布薬剤	水 100ℓ当たり ストッポール液剤 100ml (収穫予定の25~7日前、2回以内)
散布量	500~600ℓ / 10a
注意事項	①展着剤は加用しない。単用散布を厳守する。 ⇒ 他剤との混用は絶対にしない。 ②乾燥条件下では効果が低減するので、定期的なかん水を行い、園地内の湿度を上げる等の対策を図る。 ③他品目、特に野菜等に飛散しないように注意する。 ⇒ 生育障害・葉害発生の恐れあり ④落果防止剤を散布すると熟度が早まり、果肉軟化を助長しやすいので、過熟果発生に注意して収穫を進める。 ⑤シナノリップは飛散すると果肉軟化が早まり、着色や食味、日持ち性が劣るため散布の際は注意する。

【早生種 収穫前管理について】

- ①日焼け果防止対策：果実温の高い日中に作業を行い、果実温の低い時間帯には行わない。
- ②徒長枝切りや枝つり、支柱立てを早めに行い樹冠内部への光の導入を図る。
- ③葉摘み：収穫の7日前位（8/20前後）から始める ⇒ 日焼けを助長するため、あまり早期に実施しない
 - ・1回目：日焼けに注意しながら、果実に密着している果そう葉を中心とした軽い葉摘みを行う。
 - ・2回目：着色の様子を見ながら玉回しと合わせて実施する。（収穫直前頃）
- ④一度に強い葉摘みを行うと、日焼け果の発生を助長するので注意する。
- ⑤玉回し：果実が30%程度着色したら1回目を実施 ⇒ その後に収穫直前頃の葉摘みと併せて2回目を実施する。
- ⑥直射日光の当たる部分の葉摘み、玉回しは実施しない。

次面もご覧ください（早生種の収穫時の注意点 他）

【収穫時の注意】

- ①着色のみではなく尻部の地色の抜け具合も注意する。つがるの収穫は高温時であるため、過熟果の発生がないよう熟度を考慮しながら行う ⇒ 着色ではなく鮮度重視とする
- ②同一の樹のなかでも果実により熟度の差があるので、数回に分けて収穫する。
- ③鮮度保持対策：日中の高温時の収穫は出来るだけ避ける。収穫した果実は日陰などの涼しい場所に保管する。

【灌水・土壌管理】

- ①高温・干ばつにより土壌水分の蒸散が激しい場合は灌水を行い、園地内湿度を一定に保つ。尚、雨が5日以上ない場合は、1回のかん水量を20~35mm目安に実施する。
- ②水分不足は果実肥大に影響し、水分ストレスはつる割れ果等の発生を助長する恐れがあるので注意する。

● 着色資材の使用例

- ・対象：つがる他

下記資材は全て定期散布に混用可能です。選択により使用してください。詳しくは担当技術員までお問い合わせください。*ストップポールと混用はできません。定期散布には混用可能です。

商品名	使用目的	倍率	使用時期	価格	定期散布 農薬混用
きしよくかんみ 彩色甘味	着色促進 糖度向上	1,000	7月下旬・8月上旬 (収穫予定30日前と15日前の2回連続散布が効果的)	3,450円 /500g	可
モーニング エース	着色促進 品質向上	500	収穫予定日の20~25日前	6,230円 /500g	可